

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくります。

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

としあか

私と図書館

西小 二年
長島 佑記

図書館ができたのは、私が幼稚園の年長の時でした。

どの本を見ても、まだピッカピカの新しい本ばかりで、とても気持ち良かったのを覚えています。

そのころから読んできた本は、はちこのお話、すずのへいたい、おぼえていろよ、大きな木やねずみくんのシリーズなど読み物などが多かったのですが、一年生になって、朝顔の研究をするのに、図書館の本をたくさんかりて勉強できたので、理科展で銀賞に入りました。

最優秀作品

今年、おたまじやくしの研究をしたのですが、図書館のお姉さんに

「おたまじやくしの口について調べたいのですが、くわしく書いてある本はありませんか。」とたずねると、すぐに、とても良く書いてある本を見つけてくれました。

私はよく

「何々の本はどこですか? こういう本はありますか?」

とたずねるとコンピュータを使わないで、あんなにたくさんある中からさがしてくれるのが、とてもすばらしいと思っていたのに、本の中身まで全部知っているなんて、すごいですね。

図書館の本をかりてから、もう、六百冊をこえました。

私たち兄弟が本をかりてくると、お母さんが一冊ずつ本の名前と出版社と返す日付をノートにメモ

一日館長入選作文集

開館二周年にあたって

しておいて、あとでまた読みたい時や、本屋さんで買いたい時にすぐわかるようにしておいてくれます。

でも、図書館でかりられても、ほしくて買いたい時に、本屋さんではもう売っていない本などがあると残念です。

私はピアノをやっているのもっと楽しい楽がたたくさん図書館においてあって、自由にかりてこれたら良いと思っています。それと、オーケストラのスコアもあると、レコードを聞く時楽しいと思います。

小学校中学年の部

ゆめの図書館

西原小 三年
市川 茂

ぼくが、図書館に行つて、本を

読もうとしたら、大にん気のパーマンが、

「ごつちにこないかい。」

と、ぼくに、ニコニコしながらそう言った。パーマンは、マンガの本を持ってきて、

「ねえ、ぼくのマンガおもしろいかい。」

と、きいたのでぼくは

「そりゃかつこよくて強いもん。」と、大きな声でいった。

そばにいた、ファールやニュートンはかせが、

「マンガばかり読んでいないでぼくが、子どものころの時の本でも読んでみれば。きつとなんかの役に立つかもしれないよ。」

と、いったので、ぼくは、ニュートンはかせといろいろな話をしたら、りんごが木からおちるのを見て、いん力のきまりを発見しただけでなく、水時計や日時計、はんしゃぼうえんきょうなどを作ったというのが分かった。ぼくは、どうやって作ったんだろうと思った。そして、自分でも作ってみたくなりました。

そう思っているうちに、ぼくは、ねむくなつてしまいました。

「あれ。」

パツと気がつく、ぼくはなぜかもとの、市立図書館にいました。

でもさっきの図書館はどこに行ったのだろう。ぼくはくびをかしげて考えました。もしかすると、ゆめの図書館かもしれません。でもさんねんです。この図書館が本当にあれば、みやざわけんじや、アデルセン。ガリバーさんに会えるかもしれないからです。そして雨にも負けず風にも負けずというのとはどんなはなしなのかききたかったからです。

もう一度ゆめの図書館に行ってみたいな、ぼくは、ゆめの図書館が本当にあったらいいなあと思いました。

小学校高学年の部 図書館と私



西原小 六年
小柴 絵美子

赤毛のアン、ふしぎな国のアリス、トムソーヤ、ハックルベリー。わたしにとって、大事な本の中の親友達。このアン達とは、古くからの友達だ。本の中でアンは、楽しいグリーンケイブルズでの生活をのぞかせてくれたし、アリスは不思議な国でのいろいろな友達をしようかいしてくれたし、トムや

ハックはこっけいないたずらや、はらはらするようなぼうけんをさせてくれた。本の中の主人公達は、明るくてドジな人たちばかりでわたしは、いっしょにわらい、いっしょに泣く事ができた。

わたしが本のとりこになったきっかけは、主人公や登場人物の人たちが、わたしの心をつかんでくれ、本の中の不思議な世界を見せてくれたからだろう。

「絵美子は幸せだよ。こんな近くに図書館があるなんて。」

母がいつも口ぐせのように言っている言葉にわたしも同感だと思っただ。私の家から市立図書館まで自転車です三分しかからない。わたしにとって図書館はもう一つの心の栄養の部屋のような気がする。

わたしが読む本では物語が多いが、社会で歴史をやっているせい、か、歴史の本を見る事が多くなつた。貸りられない本はコピーをしてもらったりしてどんどん学校の勉強に使っている。

物語の主人公達との友情のきずなをいっそう強くしてくれたま法使いは図書館だと思ふ。歴史などをくわしく教えてくれたのも図書館だ。

わたしはこれから先、ずうっと本を読み続けて行こうと思つてい

る。物語の主人公と友達になったり、歴史やことわざを覚えるのは、楽しいからだ。図書館はこれから、も、ずうっとわたしたちにためになる事や楽しい事を学ばせてくれるだろう。

中学校の部 図書館と私



一条中 二年
渡辺 智子

私は幼い頃から本を読むことが好きだった。本は時として知識の源となり精神のやすらぎである。

また、人生の友、案内者ともなる。そんな高尚な考えを持って読んでいたわけではないが、とにかく手当たり次第に活字を追っていた。

それらの全てが吸収されたとは思われないが、私という人間に本は何かの形で影響していると思う。

いくらかたくさん読みたくても、本は高価な物だから、入手先はいつも学校の図書室だった。そしてそれはいつしか図書館へと広がっていった。

二年前、待ちに待った市立図書館が開館され、初めて行った時、何よりもその設備に驚いた。近代

的な建物。本は五冊借りられるし、ビデオやレコードもあった。証明書がなくともカードはつくれたし、機械で貸し出しがおこなわれた。そして豊富な在庫。うれしくてうれしくて、週一回は必ず通っていた。

そのためか市立図書館にはいろいろな思い出がある。例えば初めて一人でいったとき、一時間以上も迷ってからようやくたどりつけたこと。重い本をかかえてかんかん照りの夏の日におよそ往復六キロの道のりを歩きとおしたこと。

夏休み最後の日に図書館で一生懸命宿題をやったこと。閉館まで残っていた時に真つ暗な道をふるえながら帰ったこと。読みたくてたまらなかつた本がみつかつてとても感激したことなどだ。

私は今まで本を読んだことで後悔したことはないし図書館という存在のおかげで無償で好きなだけ本を読むことも出来る。

人間としては未熟だけれど私はまだ成長期であり、私には未来があるのだ。これからもどんどん図書館を利用して、多くの本を読み、確かな知識と豊かな感性を身につけたい。



犯人は誰だろう。なぜこんなことになったのだろう。まさか、あんなことにはならないだろう。わー、こわい。違う、犯人はあの人

点字の部 私と図書館



盲学校中学部
二年
佐藤 佳美

私は小学校六年生までは、本を読むことはきらいでした。

しかし、中学一年生になったあの日のことでした。

小学生の時と違い、昼休みふざけることがなくなり、おもしろくなくなつたからでした。ひまになり、図書館へ行き、本を借りました。なぜか、この頃から図書館へ行くようになりました。二学期になり、ある先生から本を推薦していただきました。その本は推理小説で、「アリスが消えた」という本でした。おもしろくて、百八十ページくらいの本を、三時間で読んでしまいました。

もし、本がきらいという人は、推理小説を読んでみてはどうですか。とても本が好きになると思います。

だ。などという考えが浮かんできます。

私は今読みたい本は、「世界少女推理名作全集」です。

この前本屋さんへ行ったら、売っていました。読みたかったけれど、墨字でした。もし誰かに読んでもらったり、テープ図書を聴くとしたら、私は聴かないでしょう。というのは、聴くだけでは頭にはいかないし、印象も薄いからです。これからも図書館へたくさん通い、そして本をひとりの友だちとしていきたいと思っています。

図書館と私



盲学校中学部
三年
青木 みつえ

図書館といっても学校の利用するだけで、足をのばして大きな図書館の建物に入ったことがありませんでした。

初めて図書館なるものに足を踏み入れたのは、中一の校外歩行訓練でした。その時貸出のカードを作ってもらった時「あー、自分のカードなんだな」としみじみ感じて、早く使ってみたくてカードをながめるたびに思いました。実際に使ってみたのは、その年の夏

休みでした。理科の教材で本を捜すはめになり、先生に図書館を利用するよう勧められて恐る恐る図書館に電話しました。その時の心境は、カードを使える喜びより「私はなんと恐ろしいことに期待をかけていたのだろう」と、後悔に似たものが頭の中をうつらうつらさまよっていました。

しかし、実際に電話をかけてしまつと、そのとき出た人がとても優しく細かいことまで教えて下さったのでほつとしました。

利用したのはそれきりでしたが、図書館案内やいろいろなお知らせなどのものが点字でたまに来ると、とてもうれしくなりました。特にこの間、「としよかんジャーナル」が突然家に届いて、もつと利用しなきゃという気持ちがあつたので、いってきました。

そしてこの作文を書く気になったのは、できるだけ図書館の企画に参加したいと思つたからです。それに興味があつて、目が見えなくても作文は出せるし、採用されなくても無駄だとは思えないからです。

これから、もつともつと利用させていただきますので、よろしくお願ひします。

佳作

小学校低学年の部

図書館と私

西原小 二年

石とびまさひろ

ぼくは、図書館をしようらいのためにつかつています。

それは、人びとがこまつていることを、たすけたいからです。

みなさんのこまつていることは、みなさんのしらないことや、できないことです。

それをたすけるために、いろいろな本をかりてよんでいます。そしてものしりになって大きくなつたら、図書かんのようなどころではたらいで、みんなにいろいろとおしえてやりたいです。

とつてもいいことをしていると、心がすきつとして、たのしいからです。

または、自分のために本をよんでいます。

自分のしらないことをなくすためです。

しらないことがなかったら、なんでもできていいからです。

それと、いろいろな本をよむと、あたまがよくなつて、かんしんさ

れる人になります。

ぼくは、ものがたりの本も、図かんも、ほしの本も、ぜんぶ好きです。

いろんな本を、いっぱいよんで、なんでもしつて人になりたいです。

それに、図書かんに行ったら、きまりをまもつて、人にめいわくかけないように、本をよみたいですよ。

いい人になるつていうのは、むずかしい。

でも、いい人つていうのは、これをたえなきやだめです。

あと、二つじょうけんがあります。

一、やさしい、二、すなおです。

ぼくは、そのいい人になるためがんばつています。

でもしつばいがあります。

ときどき、やくそくを、やぶっちゃうんです。

これからは、気をつけます。

また、よい本をかしてください。

わたしとしよかん

西原小 一年

せきね なおみ

わたしは、ようちえんのとき

はじめておかあさんと、としよかにいきました。なかにはいつてみると、ほんがたくさんあつてびっくりしました。

かみしばいもありました。「あさがおのたね」というかみしばいを、おかあさんがよんでくれました。いまでもとてもよくおぼえています。

いまでもみたこともないすぐちいさなほんがあつたのにもびっくりしました。「や」「や」「や」がないほんもありました。

わたしは一ねんせいになりました。いまでは、じもようちえんにくらべて、すらすらよめるようになったので、じぶんで、ほんもえらべます。

かんじがでてくるのは、まだよめないのなかみをよくみてから、じぶんでよめるようなほんをさがしてよんでいます。

えがきれいなほんもさがしてよみます。

かりられないほんは、ときどきとしよかんでもよめます。としよかんでもよむのたのしいです。ほんだけでなく、かみしばいもとてもおもしろいです。

なつやすみのときは、「こうさく」のほんもかりました。その日は日よう日でした。ながいへびの

ようなきょうれつが「こうきく」のほんのところまでつづいてさがしづらかったです。わたしは、なるべく日曜日じゃない日のほうがいいと、そのとき、おもいました。

わたしは、いえがちかいので、ちよいちよいとしょかにいけます。でも、とおひとはかりにくるのがたいへんだとおもいます。わたしのいとこは、いえがとおいので、二しゅうかんに一どしかこれません。かわいそうです。でも、カードをつくってたいせつにしています。

わたしは、これからもしょかにいってよいほんをさがして、たくさんよみつづけたいとおもいます。

たのしいとしょかん

西原小 一年

並木美和

わたしは、ほんがだいすきです。わたしのいえから、としょかんまで、じてんしゃですぐにいけるところがあるので、とてもうれいす。しゅうに一どは、かならずいきます。だって、ほんが、たくさんあるからです。はじめは、おとうさんがとてもほんがだいすきだから、いっしょにいったのが、

ほんのよみはじめです。おとうさんは、ほんをよむとじもおぼえるし、ことばのつかいかたやぶんしよのかきかたもよくわかるようになるよといひます。ほんは、わたしのなによりもよいともだちです。としょかにいくときは、はやくほんがよみたて二かいのかいだんをかけあがります。きょうは、なにをよもうか、ほんのまえにあるいすにすわって、なにをかりたらよいかとおもいながらほんにとらめつこします。わたしは、ほんをえらぶときは、ほんをかい

たひと、そのほんのないようであらんでいます。たいてい、しゅうげんじはるこさんのかいたほんをえらびます。えはいわきさちひろさんのやさしさのあるいろのぬりかたがだいすきです。としょかんにはほんがたくさんよみやすいようにきちんとならんでいます。とてもよみやすいです。よみたいほんがみつからないときには、かかりのおねえさんがすぐにさがしてそつとやさしくわたしにだしてくれます。ほんをたくさんよんで、もつともつといういろなことをしたいです。わたしはじかんがあるときはいつもそこでなんさつかよみ、あと五さつかります。このものとしょかにまんのほんが

あつたらおともだちもたくさんよみにくるとおもいます。としょかにかりにくるひととだんだんふえ、ほんがすきになるひととおおくなることでしょう。あたらしいほんをたくさんかっていたとき、たのしいこどものへやでしずかにほんをよめるよいこになります。だいすきなわたしのとしょかん、いつまでもほんをたいせつにしてたくさんよみたいす。としょかんのかかりのかたいつもありがとう。

としょかとぼく

西原小 一年

わたなべゆうすけ

ぼくは、ほんがだいすき。としょかんもだいすき。としょかんがすきになったのは、うちのおねえちゃん、ほんをよむのが、だいたいだいすきなので、ぼくもいっしょにいて、おもしろいほんを、いっばいさがしたからです。

ぼくが、としょかにいくときは、おかあさんか、おねえちゃんといきます。やすみの日には、おとうさんもつれていってくれます。じてんしゃで、れんたいをくんでいきます。

このあいだは、ちゅうしゃじよのいしころが、どうろに二十こ

ぐらいていたので、ぼくのじてんしゃと、ぼくがころんでしまいました。とつてもいたかつたです。いり口からはいったら、おかあさんとわかれます。おかあさんは、したでほんをよみます。ぼくは、かいだんをのぼって、二かいにいきます。

「かいだんはきをつけてね。」とおかあさんにいわれます。

ぼくは、「かこさとし」のほんがすきです。「かわ」、「にんじんばたけのパピペポ」、「むしばのミュータンス」が、とてもおもしろかつた。

ぼくは、かなしいほんはきらいだけど、「けんぼうは一ねんせい」と「さだおばさん」というほんは、かわいそうだったけどよかつた。「日よういち」は、うんどうかいのおみせやさんのようなみせが、こまかくいっばいかにてありました。それから、「おおきな木がほしい」のほんもよかつた。それは、ふとい たかい おおきな木のでつべんにこやをつくつた、かおるのおはなしです。ぼくも、そういうこやをつくつてみたいとおもつた。

ぼくは、くろいろのいきけんいれを、かつてもらつて、としよのカードをいれています。おれな

くてとてもいいです。
なかで、どのほんにしようかまよつてしまつて、やつときまつてから、いつもみずをのみます。ろのかのはじつこのみずは、つめたくておいしいです。



大好きになつた本

宮の原小 四年

大河原 由佳

今日もお母さんと図書館に……。図書館ができたころを考えると、うそのような気がする。はじめのころはよくお母さんに、「近くに、あんなにいい図書館ができたのだから、いつてきなさい。」と言われ、し方なしに行き一さつかりてきた。それも何日もかつて、やつと読み終した。

また、図書館に行った。次は二さつかりてきた。今度は中みをばらばらめくつただけだった。

次は、三さつかりてきた。お母さんが

「本のなかみ読み終つたら話してね。」

と言つたので、おこられちゃたいへんだと思つて、いっしょうけんめいに読んだ。そうしたら、言葉づかいがうまくつかわれているの

におどろいた。今まで知らなかったことがわかってきて、楽しくなってきた。

こんな日をくりかえしているうちに、『飛べ千羽づる』という本に出会い感動した。戦争を知らなかった私には、両親が戦争のころの話しをすると、「今と昔はちがうよ。」と、はんばつしたこともあった。この本を読んでからは、なぜか、自分の生活を反省してしまった。両親が戦争の話しをする気持ちもわかってきた。それに、恵まれている今の生活に感謝できるように なってきた。

また、ひとりっ子の私は、本によつて、友だちの大切さや、がんばることのすばらしさを教えてもらうこともできた。

このごろは、図書館に行くたびに、五きつかりてしまう。お父さんも、土曜日から日曜日になると図書館に行く。かりたい本は、まだまだたくさんある。

市立図書館ができたおかげで、私はもちろんのこと、私の家族みんなが、本が大好きになった。ひまがある親子三人そろつて、本を読んで楽しんでる。

これも、市立図書館ができたおかげだと思う。これからも、いっしょうけんめいに本を読んで、い

先生への手紙

(図書館で調べた事)

西小 四年

桜井 裕子

高橋先生こんにちは、お元気ですか。

先生が、姿川第一小学校に行かれてから、もう五カ月もたつてしまいましたね。あゆみちゃんも、もう歩き回っていますか。

私は、今年の夏休みは、たくさん本を読む計画を立てました。夏休みになってから、十二きつの本を読みました。いろいろなしゅ類の本がたくさんある市立図書館から一度に五きつも借りられるので、とても便利です。

この間、社会科で、「宝木用水」を調べる事にしました。その中で、昔のお米のねだんを調べるため、お母さんと図書館に行きました。とても暑い日だったので、自転車のペダルをふむと、あせがばたばたで、何度も手であせをぬぐいました。

図書館の一階には、大人の人達の本がずらつとならんでいます。

「昔のもののねだん」という本がありました。私が調べる時代のお米のねだんは書いてありません

でした。私はがっかりしましたが、お母さんが受けつけのおねえさんに聞くとおねえさんは電話をかけて、何やら話しをしていました。三階の方にあるそうですよ。」

と、親切に教えてくれました。三階はとても静かで話し声も聞こえません。中学生や高校生がづくえに向つて、熱心に勉強しているのにびっくりしました。受けつけにいたお兄さんが大きな事典を持って、待っていてくれました。「ここに書いてありますよ。」

と、いってお米のねだんの書いてある所を教えてくださいました。私は、(図書館ではたらいっている人達は本が大切になんだなあ)と思いました。おかげで昔のお米のねだんを知る事ができました。

先生、今度西小小学校にきた時には、私のクラスにも来てください。その時わたしは図書館で調べた「宝木用水」を見てください。

高橋先生へ
さようなら
裕子

ぼくの自まんの市立図書館

宮の原 四年

原 幸彦

「ぼくの家の近くに市立図書館があるんだ。」これは、ぼくの自まんの一つである。

それは、わからないことがあったら、図書館に行つて調べると、たいいていのがわかるからだ。

それに、先生はよく、「本は心の友である。」と言つて、本の話しをしてくれる。ぼくは、その意味が、このごろわかつてきたような気がする。

夏休み中のある日、ひとりで図書館に行つてみた。その時、「ウルフはひとりぼっち」という本を読んだ。その本から、ひとりぼっちでは何もできないことや、友だちの大切さを学ぶことができた。

これも、市立図書館の本のおかげであると思ううれしくなる。

市立図書館に行くようになって、ぼくは、次の五つのことを自まんしている。

一、読みたい本がいついっても必ずある。

(それに、ためになる本もたくさんある。)

二、静かなところで読むことができる。

(受験生らしい人が、いつもしんけんに勉強している。その姿をみると、ぼくたち小学生も本に熱中できる。)

三、かきえる時も、かえず時も、コンピュータシステムがつかわれているので、時間がかわらな

い。

四、宇都宮市民なら、かし出しカードを作れば、だれでもすぐかりることができる。

五、一回に五きつもかりることができる。

「一人で五きつもかりられるんだよ。」

と聞いた時には、とてもびっくりした。市民のために作った図書館だから、たくさんかりることができるとは、なんだなあと思った。

市民がひとつ用として作った図書館、市民のための図書館、今のうちに、いつまでも市民にしたわれる図書館であつてほしいと思つてゐる。ぼくは、きつといつまでも、「ぼくの家の近くに市立図書館があるんだ。」と自まんすることだろう。

市立図書館を利用して

西原小 四年

松原 育子

私は、よく市立図書館を利用します。そして、それが家の近くにあるので、とつてもうれしいのです。たくさん、自由に本が読めることは、本当にしあわせだと思ひます。

読みたいと思つている本や、調べたい事があつると、私はすぐ市立

図書館にかけつけます。

図書館には、いろいろな人々がたくさん本を借りています。みんな何さつも手にかかえています。

こんなに本を借りる人がだんだんふえるということは、これから多ぜいの人が借りにくるだろうとよそうできます。

そうなる、図書館ではもっと、もっと本をふやしていくことでしよう。

それと思うと私は、これからどんな新しい本に出会えるかなと、とっても楽しみです。

よく言われる言葉ですけれど、「本を読むと心がゆたかになる」と、いうことがあります。

読むということによって、いろいろな場所や風土、そして、文化が分かります。

ゆめとちえをあたえてくれる図書館は、とてもすばらしい心のほう庫だと感じます。

これは、現実的な私のねがいだけでなく、夏休みのしゅく題を調べに行った時、その本は、一さつしか、置いてありませんでした。そしてその本のうらには、貸し出しの出来ない「赤いシール」がはつてありました。しかたがないのでコピーをしてきました。

やっぱり、コピーで写したしり

ようよりもその本で、くわしく読めたらなど、その時、さんねんに感じました。

図書館に、わたしの古い本をきふしたことがあります、私はその本にも出会えました。

おさない女の子が、大切そうに手にしているのを見てとてもうれしかったです。

これからも、大いに図書館を利用して心の友にしたいです。

小学校高学年の部

図書館と私

西原小 五年

野中睦子

学校から帰って、少しでも時間があると、私は、弟と自転車で行く図書館に行きます。明るく落ち着いた広い一階ホールを通り、シヤンデリアのかがかやく広いオレンジ色の階段を登って、二階の児童図書室に入ると、自分のおしるにきたような気がしてホッとします。本だなに作者別にきちんとならべられたたくさんの本、そして忙しそうに貸し出しのお仕事をしているおねえさん、本を選んだり、すみのいすにこしかけて、静かに本を読んでいるお友達。いつも見慣れたまわりの様子が、不思議に、

私を落ち着かせてくれます。本の大好きな私は、この図書館ができてから、すっかり、とりこになってしまいました。この部屋には、私のゆめがいっぱいつまっています。今までに読んだ心に残るすばらしい本、まだ読んでいないけれど、読んでみたいたくさん本の、どこのたなにどんな本があるか、目をつぶっていても分かります。みんなみんな私の宝物です。つかれてるときや、けんかしていらしてるとき、お母さんにしかられてしょんぼりしているときも、私の足は図書館に向いてしまします。そして、好きな本を好きにだけ読んで、規定の五冊の本を借りられたときは、もうすっかり心が晴れて、満足したさわやかな気分になってしまいます。私にとって、図書館は心のオアシスであり、はてしないゆめをあたえてくれるおしろなのです。

私の家から歩いて十分とかららないところにある市立図書館、こんな近くに、こんなすばらしい施設に恵まれている私は、本当に幸せだと思えます。この中には、点字室やえつらん室など、私の入ったことのない部屋がたくさんあって、広く多くの人に利用されているそうです。私も早く大きくなつて、児童図書室ばかりでなく、これらの部屋をじょうずに利用して、恵まれた機会を大切に生かし、もっともつとゆめを大きくふくらませたいと思っています。

図書館がたくさんあれば

西原小 五年

引地 靖

ぼくの家が図書館の近くでよかった。だからこそぼくは宇都宮に図書館がもっとたくさんあればいいと思います。そうすれば、東の方の人も、北の方の人も多くの人たちがぼくたちのように、もっと楽しくもつと身近かに本を読めるようになるからです。

この図書館のおかげで、ずいぶんいろいろな本が読めました。あと、レコードやビデオがあつてとても便利です。これから、本・レコード・ビデオなどをどんどんふやしてほしいです。それに水を飲む所が、一つしかないのです、いつもこんでいます。少しふやせば、あまりまたずにすむと思います。本を借りる所も二カ所作ってほしいと思います。図書館がしまっている時、本を返す所があつて、なぜレコードや、ビデオ返す所はないのかというのを思っています。そういう所を作ってほしいと思います。

今、何とかのひみつとか、日本の歴史などもみんなよく読んでいます。こういうものを読もうとしても、ないので。なんとか読めるようにしてほしいです。

ぼくは図書館に、いろいろと身体しようがい者用のものがあるの、とても感心しました。ぼくはこのようなしせつが多くあればいいと思います。

こんなりっぱな図書館はないと思います。いろいろなせつびがあり、いろいろな本が読める。家が図書館の近くでよかったです。

図書館は勉強にもなるし、いろいろな本が読め、こういうことのできる図書館が、他の人にも多いに利用してもらいたいです。図書館にいて、本がぐんぐん好きになるのも不思議なことのようにです。

僕が図書館長になったら、こういう図書館を市の東西南北にそれぞれ一つずつ作るよう市にたのみたいと思います。だれでも近くで利用できるからです。みんなが本が好きになればけんかなんてばからしくなるし、図書館を通じて北や東の方の人と仲よくできます。



宇都宮市立図書館

西原小 五年

平出和恵

私は、図書館に行くたびに、い

ろいろなことを思います。そうじ

ろのおばさんにあうと、心の中で

「おせわになります。」きれいな

ゆかをあけるのは、とても気持ち

ちがよかんじます。ときどき、

手づくり絵本でんや、本を書く作

者の顔をしゃしんでかざってあつ

て椋嶋十さんの顔をはじめて見ま

した。図書館のべんりさをつくづ

く思います。

それから、物語だけでなく、学

けんまんがや詩の本、料理の本、

など、たくさんの本がずらりとな

らび、ない本があれば、よく、

リクエストカードで本がくるとい

うのは、とてもべんりです。図書

館まで1Kmぐらいあるけれどい

いうんどうになるので、いい所に

図書館ができたなあと思います。

小さい子がきょうは、たくさん

お母さんときているなという日は、

お話会があったりします。それか

ら、小さい子むきの本から、小さ

い字のすいり小説までみんなぞろ

つています。きちんとアイウ…。

の五十音順なのでがす時、とて

もべんりです。

本がおいである所がわからなく
ても、やさしく場所をおしえてく
れるので、とてもしんせつにして
くれるため、図書館に行くのが、
とても楽しくなります。

たくさんの人と図書館に行った
りきたり、していると、友だちが
多くなりました。

私は、宇都宮市にうまれて、と
てもうんがよかったと思います。

あんなにすばらしい、図書館、し
かも、西原地区の一つなのですか
ら。図書館のまわりには、すばら
しい公園、ほんとうに恵まれてい
るなあと思います。

栃木県、宇都宮市の施設は、ど
んどん、ふえてくれば、いいと思
います。図書館も、その、施設の、
一つ。大切に、していこうと思ひ
ます。まだあたらしい図書館。

本をたくさん読み、宇都宮市の
人は、心のゆたかな人になるでし
よう。

これから、図書館の本をたく
さん読んで図書館をおおいに大切
にしようと思います。

小さい子がきょうは、たくさん
お母さんときているなという日は、
お話会があったりします。それか
ら、小さい子むきの本から、小さ
い字のすいり小説までみんなぞろ
つています。きちんとアイウ…。

の五十音順なのでがす時、とて
もべんりです。

本が大好き

西原小 五年

渡辺江里子

「作文を書いて館長になろう」

それを見たわたしは、

「わあ、いいな。なりたーい」
と思わず言ってしまった。

私は本が大好きです。学校の図
書館の本も、だいたい四分の一位
読み終ってしまった。私の本

好きは、幼稚園のころぐらいから
です。本を読み始めると、熱中し
てしまって、だんだん周りの雑音
が少しも気にならなくなっていま
います。自分が思っているのは、
読んでいる本のことだけ。やさし
い先生や母にも、

「江里子。」
と、きつい調子で注意され、はじ
めてはっと気がつきます。

ときどき友達に、
「そんなに本っておもしろいの？」
などと、とっても不思議そうに聞
かれます。あんまり読まないから
こんな質問聞くなかな。もつと本
を読めば、本が楽しいことが分か
るのに、と思います。本をよまな
い人に、本がとっても楽しいと言
うことを、知ってもらいたいと思
います。

いつも私が本に夢中になるのは、
読んでいて、いろいろな空
想ができること、本の中の人物の
気持ち、だんだん分かってくる
こと、読んでいて、いろいろ
んな言葉や知識が分かること…な
どなど、いっぱいあります。私

の読書ノートの感想らんには、二
重丸ばかりが、ごろごろです。だ
から、一番良かった本を選ぶよう
な時は頭がこんごつしてしまいま
す。

でもその中で特に感動したのは
灰谷健次郎さんの「太陽の子」です。
ふうちゃんの素直な心に、感動し
て、目から涙が本の上に落ちるの
も忘れ、二時間位、ずっと読み続
けてました。

市立図書館は、私の好きな物の
「結晶」です。これからも、どん
どん本を借してください。

「結晶」です。これからも、どん
どん本を借してください。

市立図書館は、私の好きな物の
「結晶」です。これからも、どん
どん本を借してください。

市立図書館は、私の好きな物の
「結晶」です。これからも、どん
どん本を借してください。

図書館と私

一条中 三年

清水幸恵

私は、この十五年間というもの、

たくさん本を読むための手伝い

を、図書館にずい分してもらった

ような気がする。自分で本を買っ

たり、友達に借りて読んだり、と

いうのはある程度数が限られてく

るが、図書館に一步足を踏み入れ

ると、そこは、あたり一面本、本、

本…なのである。ありとあらゆる

種類の本が、私達を「読書」とい

う世界へ手招きしているのである。

本が好きな私としては、思わず口

元がほころんでしまう。
先頃推理小説にすくこつて、
家にあつたあらゆる推理小説を読
んだけれど、それではまだ物足ら
ず、今度は図書館中の推理小説を
全部読みつくしてしまったことが
ある。それを読み終った後には、
自分がどんな難事件にぶつかつ
ても、いとも簡単に解決してしま
う名探偵になったようで、何ともい
えない満足感にひたっていたこと
を今でもよく覚えている。

もし、本を読むことが嫌いだ、
という人はまず図書館にきてみる
ことだと思ふ。難しい本をしかめ
つ面をしながら読んでいるのばか
りが読書ではないのだ。自分の興
味あるもの、好きなものを楽し
く読んだって読書なのである。図
書館にある数多くの本の中には、
自分がめぐり会いたいと思つてい
たような良書が、きっとあるはず
である。それに会った時、今ま
で読書というものを堅苦しく思っ
ていた人も、違った世界に見えて
くるのではなからうか。

私は、読書というものは、非常に
大切なことだと思ふ。自分が経験
していないこと、自分の意見とは
違った考えなど、多くの栄養を吸
収することができるから。だから
私は、私達のために造られた、図

元がほころんでしまう。
先頃推理小説にすくこつて、
家にあつたあらゆる推理小説を読
んだけれど、それではまだ物足ら
ず、今度は図書館中の推理小説を
全部読みつくしてしまったことが
ある。それを読み終った後には、
自分がどんな難事件にぶつかつ
ても、いとも簡単に解決してしま
う名探偵になったようで、何ともい
えない満足感にひたっていたこと
を今でもよく覚えている。

もし、本を読むことが嫌いだ、
という人はまず図書館にきてみる
ことだと思ふ。難しい本をしかめ
つ面をしながら読んでいるのばか
りが読書ではないのだ。自分の興
味あるもの、好きなものを楽し
く読んだって読書なのである。図
書館にある数多くの本の中には、
自分がめぐり会いたいと思つてい
たような良書が、きっとあるはず
である。それに会った時、今ま
で読書というものを堅苦しく思っ
ていた人も、違った世界に見えて
くるのではなからうか。

私は、読書というものは、非常に
大切なことだと思ふ。自分が経験
していないこと、自分の意見とは
違った考えなど、多くの栄養を吸
収することができるから。だから
私は、私達のために造られた、図

元がほころんでしまう。
先頃推理小説にすくこつて、
家にあつたあらゆる推理小説を読
んだけれど、それではまだ物足ら
ず、今度は図書館中の推理小説を
全部読みつくしてしまったことが
ある。それを読み終った後には、
自分がどんな難事件にぶつかつ
ても、いとも簡単に解決してしま
う名探偵になったようで、何ともい
えない満足感にひたっていたこと
を今でもよく覚えている。

もし、本を読むことが嫌いだ、
という人はまず図書館にきてみる
ことだと思ふ。難しい本をしかめ
つ面をしながら読んでいるのばか
りが読書ではないのだ。自分の興
味あるもの、好きなものを楽し
く読んだって読書なのである。図
書館にある数多くの本の中には、
自分がめぐり会いたいと思つてい
たような良書が、きっとあるはず
である。それに会った時、今ま
で読書というものを堅苦しく思っ
ていた人も、違った世界に見えて
くるのではなからうか。

私は、読書というものは、非常に
大切なことだと思ふ。自分が経験
していないこと、自分の意見とは
違った考えなど、多くの栄養を吸
収することができるから。だから
私は、私達のために造られた、図

元がほころんでしまう。
先頃推理小説にすくこつて、
家にあつたあらゆる推理小説を読
んだけれど、それではまだ物足ら
ず、今度は図書館中の推理小説を
全部読みつくしてしまったことが
ある。それを読み終った後には、
自分がどんな難事件にぶつかつ
ても、いとも簡単に解決してしま
う名探偵になったようで、何ともい
えない満足感にひたっていたこと
を今でもよく覚えている。

もし、本を読むことが嫌いだ、
という人はまず図書館にきてみる
ことだと思ふ。難しい本をしかめ
つ面をしながら読んでいるのばか
りが読書ではないのだ。自分の興
味あるもの、好きなものを楽し
く読んだって読書なのである。図
書館にある数多くの本の中には、
自分がめぐり会いたいと思つてい
たような良書が、きっとあるはず
である。それに会った時、今ま
で読書というものを堅苦しく思っ
ていた人も、違った世界に見えて
くるのではなからうか。

私は、読書というものは、非常に
大切なことだと思ふ。自分が経験
していないこと、自分の意見とは
違った考えなど、多くの栄養を吸
収することができるから。だから
私は、私達のために造られた、図

図書館と私

田代典子

なぜ、これ程まで図書館が好き

「どんな事が書いてあったの？」



鏑木洋子

これからの図書館

福田雅之

(低学年44、中学年56
高学年60、中学校21。)